

～令和8年度学校経営所信～

令和8年度学校教育目標「共に生きる力を育む」

本校の学校教育目標は、「共に生きる力を育む」～未来社会を豊かに生きる力と社会の形成者として 人間愛ある基礎的な資質・能力を育む。多様な他者の視点や考えと協働する力を持ち、そこから新たな価値やビジョンを構築し課題解決に向かう力を育成する～ 多様性の尊重と協働する力です。

この目標は今の時代または未来社会に向けてますます重要になっていると考えています。

これから子どもたちが生きていく社会は、Society5.0とも言われる、変化が激しく、正解が一つではない時代です。知識や技能はもちろん大切です。しかし、それだけで未来を豊かに生きていくことはできません。自分一人で答えを出すのではなく、多様な他者の考えや立場にふれ、対話し、協働しながら、新たな価値やビジョンをつくり、課題解決に向かっていく力が求められます。

けれども、その力の土台には、もっと大切なものがあります。それが、人間愛ある基礎的な資質・能力です。

相手を大切にすること。違いを排除せず、受け止めること。
自分の思いだけでなく、相手の思いや背景にも心を寄せること。
そして、よりよいものを共につくろうとすること。
つまり多様性をうけ入れ尊重すること。

こうした姿勢がなければ、「協働」は形だけのものになります。逆に、この土台があれば、子どもたちは違いを力に変えながら、しなやかに未来を切り拓いていくことができます。

だからこそ、本校の教育目標である「共に生きる力を育む」は、単なるきれいな言葉ではありません。これは、未来社会を生きる力と、人として社会をつくっていく力とを、一つにしてたくましく育てようとする、本校の教育の中心にある理念です。

この目標は、ある特定の時間だけで育つものではありません。
授業の中で育ちます。

学級経営の中で育ちます。

行事の中で育ちます。

子ども同士の関わりの中で育ちます。

さらに言えば、私たち教職員の姿そのものの中で育ちます。

子どもたちは、教師がどんな言葉を使うかを見ている。

どのように相手を尊重しているかを見ている。

違う意見にどう向き合うかを見ている。

困難な状況で、どう知恵を出し合うかを見ている。

つまり、「共に生きる力」は、子どもに求めるだけでなく、まず**私たち自身が体現していくべきもの**でもあります。まず私たち自身が、教育目標の体現者でありたいと思います。そして子どもたちにもそれを学ぶ機会を常に意識してつくっていくことが大切です。（Make diversity Make harmony をあらゆる場面で機能させること）短期では育たない、何度も価値づけて身につけてくる。

今年度、私たちがめざしたいのは、子どもたちに知識を与えるだけの学校ではありません。また単に変化に対応できる子でもありません。子どもたちが、他者と出会い、考えを深め、共につくり、共によりよく生きようとする学校です。

そしてその営みを通して、一人一人が、未来社会を豊かに生きる力と、社会の形成者としての基礎を身につけていく学校です。人を大切にしながら、他者と共に未来を創っていける子どもたちです。

先生方一人一人のお力が、そのまま本校の教育の質になります。

どうか今年度も、この教育目標を学校全体で共有し、日々の実践の中で具体的な姿にしていきたいと思えます。

子どもたちが、この学校で学んでよかった、出会えてよかった、自分も友達も大切にしながら前へ進む力がついた、と実感できる一年にしていきたいと思います。もちろん先生方もです。

本年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

令和8年4月1日

金沢大学附属小学校

校長 盛一 純平